

裾野麗峰山の会山行報告書

文・後藤隆徳 写真・後藤、掛橋

山行番 NO. 1588
日時 2014.03.08(土)～09(日)
山域 ハツ・権現岳(2715m)
参加者 後藤隆徳、小松眞明、掛橋智美＝3名

第2日目 03月09日(日・快晴)

タイム 伊予ロッジ発7:00－天女山下・八ヶ岳横断道路発7:36－天女山8:04
－天ノ河原8:22－前三ッ頭10:42－三ッ頭11:40－権現岳12:42
－三ッ頭13:25－前三ッ頭13:44－昼食13:50～14:00－登
山口－15:39

標高差 上り＝天女山下登山口約1380m～権現岳2715m＝約1335m
下り＝

宿泊の清里・伊予ロッジは、安価で家庭的。なかなかイイ宿だった。暖房費も取らなかった。権現岳に上ると言ったら、朝食は早めに配慮してくれた。女将は優しい、親爺は温かかった。

親爺は我々の話し方を聞いて、「静岡だろう」と言い当てた。出身は新潟・長岡と言った。ハンチングを被り、鼻歌で軽快に配膳。

横断道路を行くと、天女山下の登山口には三台の車。早い。そして松本ナンバーの女性一人の車がウロウロ。後で分かったが、この若い女性は伊那の労山仲間だった。

ゲートから出発。天女山から、その上の天ノ河原着。ここは展望が良かった。この上は、防火帯みたいな切り開きを上る。天気は良好で暑く、遥か高みに権現岳の岩峰が確認できた。

しばらく退屈な道が続く。そしてようやく前三ッ頭の上りに掛かる。かなり急でラッセルは厳しかっただろう。上からテント泊のオジサン4名が下って来た。ラッセルの礼を言うと「少しあったので、大したことはなかった」の返事だった。

この急登でK松が遅れる。K松はこのところ仕事が忙しく、昨夜、四国から戻ったばかりだった。疲れが蓄積しているのだろう・・・。

下から単独が上って来た。見れば若い女性で、なかなかイイペースだった。声を掛けると朝、登山口で駐車場を探していた人で、労山の「伊那山仲間」(会名)の方だった。

兎に角、前三ッ頭まで急。頭に出ると展望が広がり、小淵沢方面は白い部分が多かった。ここは風が強い所で見事な樹氷が付いていた。伊那山仲間の彼女はここで休んでいた。

黄色いテントが一張あった。三ッ頭までひと踏ん張りだ。樹林帯を抜けて三ッ頭着。正面に権現の岩峰。後ろその右に阿弥陀岳・中岳・赤岳の大展望。風なく平穏だった。



天ノ河原上



伊那山仲間の方



前三ッ頭



三ッ頭から



時間が気になった。既に11:15。本来は12時前に頂上が理想的。宿泊は朝食の配慮して貰っても出発は遅い。12時まで頑張ることにする。

三ッ頭から少し下って再び急登が待っていた。この上部にちょっと嫌なトラバースがあるが、案外雪はしっかりしていた。

数十年前の冬上った時、ここは嫌らしかった。従ってここは冬2回目。ただ、その時は途中泊りだった。今回はラッセルがあったから日帰りは可能だが、なければ難しい。

12:45、時間的にはギリギリの13時前登頂。K橋はよく頑張った。ただ、K松は最後の上りで時間切れだった。厳しい山は、精神・肉体的に余裕がないと敵わないものだ。

すぐ下山。三ッ頭の上り返しでK松と合流。上り返しは腹が減って力が入らない。まだ、昼食前だった。前三ッ頭から少し下り、日当たりの良い場所で昼食。ここまで持参したビアが美味かった。

いつもそうだが、下山は長い。特に防火帯みたいな切り開きは、なかなか終わらなかった。ようやく横断道に出て終了。丁度、伊那山仲間さんも降りて来た。話を聞くと彼女の名前は、「I山」と書いて、「Y山」と読むそうだ。それを聞いて皆で爆笑だった。でも、この時期ピッタリのお名前と思った次第です。



権現岳直下



権現岳を下る



三ッ頭



前三ッ頭



面白造形



伊予ロッジ・オーナー



左がY山さん